



仰木中学校だより



令和6年12月10日発行
第10号
生徒数 553名
HP版

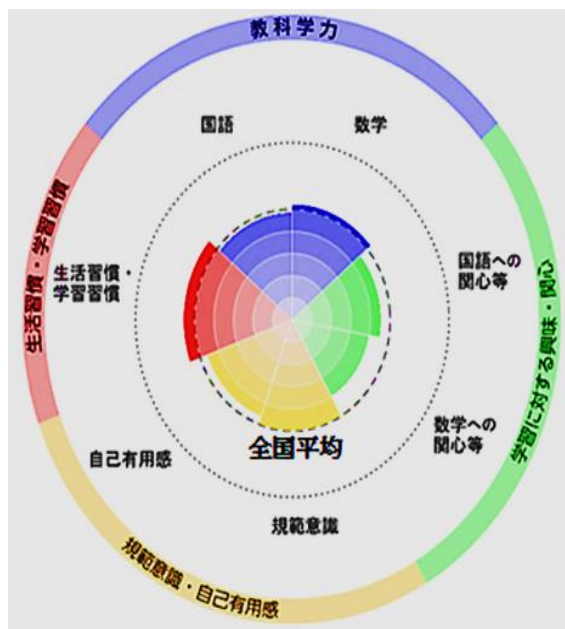
仰木中生の 強み と 弱み

～全国学力・学習状況調査より～

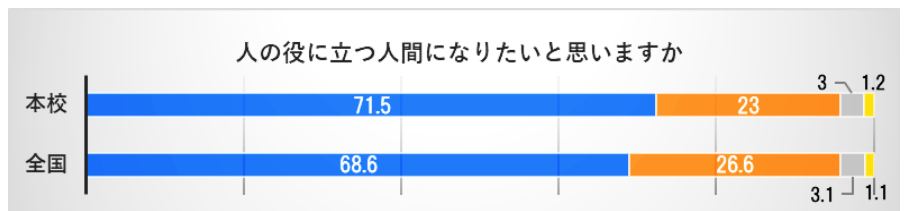
令和6年度の全国学力・学習状況調査は、4月18日(木)に国・数の2教科を実施しました。今回の調査結果から、本校の強みと弱みを分析しました。この調査は、3年生を対象とした調査ですが、仰木中の一定の傾向はつかむことができると考え、生徒質問紙の結果については一部グラフを掲載しました。

- ▼学力調査では、数学の正答率は県・全国平均ともに上回りましたが、国語の正答率は全国平均をわずかに下回る結果となりました。
- ▼国語は、「話す・聞く」「書く」「読む」のすべての区分で、全国平均をわずかに下回っているものの、県平均は1～2ポイント上回っています。情報の扱い方に関する事項と我が国の言語文化に関する事項において、県平均を下回りました。
- ▼数学では、「数と式」「図形」「関数」の領域において、正答率が全国平均を上回っており、記述式の問題においても、県・全国平均ともに上回っています。「データの活用」の領域で、全国平均を4ポイント下回りました。
- ▼生徒質問紙調査の『学習習慣』では、平日1日あたりの家庭学習時間(塾等を含む)が「2時間以上」の回答が全国平均を10ポイント以上上回りましたが、数学・国語の『興味・関心』において、「好きか」「大切だと思うか」の質問では、依然、全国平均を下回りました。さらに、「学習したことは、社会に出たときに役立つと思うか」の質問についても全国平均をわずかに下回り、学ぶ楽しさや意義を感じられなかったりするなど、『学習に対する興味・関心』に課題が見られました。また、自宅に読書用の本がある割合が低く、読書離れも懸念される結果となりました。
- ▼『自己有用感』は昨年度同様、全国平均をわずかに下回っていますが、『規範意識』として、「いじめはどんな理由があってもいけない」と肯定的な回答をする生徒は、県平均・全国平均を下回っているものの、昨年度と比較すると、その差は小さくなっています。

	強み	弱み
国語	●文脈に即して漢字を正しく書いたり、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめる力はある。 【指導の充実に向けて】 ◎図やグラフ、その解説等の文章などを読み必要な情報を読み取る学習や、意見と根拠、具体と抽象などの関係を意識して読む学習を繰り返し取り入れます。	▼意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係についての理解や行書の特徴の理解に課題が見られた。
数学	●「数と式」「図形」「関数」の領域において、その知識・技能は定着しているといえる。 ●筋道を立てて証明したり、数学的に説明する力が身につけている。 【指導の充実に向けて】 ◎答えを出すまでの過程や、分析した結果を数学用語を使って説明する機会を多く設けます。	▼「データの活用」の領域で、特にデータ分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現で説明することに課題が見られた。
その他	【指導の充実に向けて】 ◎国数の学習の定着は全国平均と差がありませんが、学習への関心が低いため、意欲的・主体的に学習に取り組めるよう、タブレットを活用した課題解決学習や探究的学習を取り入れます。 ◎校内研究や教科部会でこれまでの授業スタイルを見直し、授業改善を図ります。 ◎生活習慣では、朝食摂取率が高く、スマートフォン利用も家庭での約束が守れている生徒が大半を占めており、以前と比較して改善がみられました。今後も食育や情報モラル学習など子どもたちの知・徳・体を一体的に育む教育活動を進めていきます。	



(左から) 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない



「規範意識」の基礎となる「自己有用感」を育む

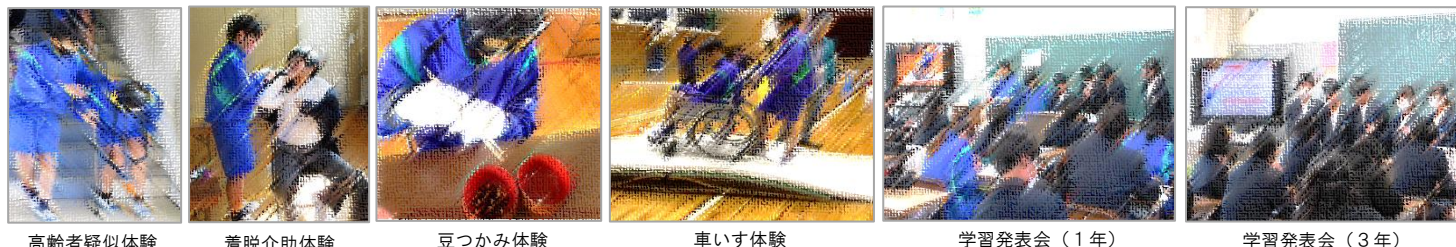
▼自分がしたことを感謝されてうれしかった、自分は頼りにされている、誰かの役に立っている、皆から認められている…というような他者と交流することで得られるこうした感情が「自己有用感」です。自分本位でなく、他者が存在して成り立つ感情です。▼人が他者や社会に好意的な感情を抱くのは、自分が相手から受け入れられている、認められているという感覚を抱く体験から始まります。自分の行動を誰かが見てくれている、自分のために誰かが何かをしてくれている、そういった他者からの働きかけや他者との交流の「自覚」が基盤となり、他者と関わり合いたいという思いが生まれます。▼この自己有用感の獲得が、他者の視点に立ってその感情や考えを想像し共感する力を育み、「規範意識」や「道徳的実践力」の基盤となります。▼9割以上の生徒に、「人の役に立つ人間になりたい」という思いがあります。その思いが行動に結びつくようにするには様々な経験や体験の場、機会が必要です。

つながり、支え合う地域共生社会の担い手に

人権学習 想像力を働かせ 気づき・考え・学び合い・自らの生き方につなぐ

校内人権週間 12/2～12/8 わたしの人権、あなたの人権、そして、みんなの人権を守る！

- 1年：『障がい者理解・高齢者理解』（社会福祉協会出前講座/真野しょうぶ苑施設長による講話）
 【高齢者疑似体験/豆つかみ・着脱介助体験/車椅子体験】
 2年：『拉致問題』（アニメ「めぐみ」の視聴を通して）
 3年：『多文化共生・国際理解』（滋賀県国際協会によるワークショップ等）
 【貿易ゲーム/リアル人生ゲーム/世界と私とのつながりを学ぶ】



高齢者疑似体験

着脱介助体験

豆つかみ体験

車いす体験

学習発表会（1年）

学習発表会（3年）

介護（サポート）する上で重要なこと （真野しょうぶ苑施設長さんの講話より）

- ①声をかける ②相手の気持ちに寄り添う ③相手のペースに合わせる ④相手のできることを大切にする ⑤相手を知る（理解する）

幼児とのふれ合い体験（3年家庭科） / 仰木の里幼稚園 ご招待

▼3年生の家庭科では、幼児の発達や生活の様子、成長するために必要な環境等について具体的に理解を深めるために、毎年、幼児とのふれ合い体験学習を実施しています。今年度は、仰木の里幼稚園さん、仰木の里東幼稚園さん、仰木星の子こども園さんにお世話になりました。▼このように、地域の幼稚園やこども園さんには、毎年、2年の「職場体験学習」や3年家庭科の「幼児とのふれ合い体験」といった仰木中の体験学習を快く受け入れていただいているだけでなく、この体験で仰木中生徒が優しく園児に寄り添った関わりをしてくれると、お褒めの言葉まで頂戴しています。



▼このつながりを大切にしたいと思い、先日、12/5(水)の昼休みに、仰木の里幼稚園の子どもたちを中学校にご招待しました。▼園庭よりもずっとずっと大きな中学校のグラウンドで、思い切り体を動かして中学生と遊び、交流を楽しんでほしいと思い企画しました。学年関係なく、予想以上にたくさんの生徒がグラウンドに出てきて、3歳から5歳の子どもたち47人と、それぞれに交流を楽しみました。天気もよく、体も心もあたたまるひとときでした。



学校夢づくりプロジェクト

「今日もがんばろう、明日もがんばろう」と思える昇降口に！

▼今年度の学校夢づくりプロジェクトの取り組みは、『昇降口を「今日もがんばろう、明日もがんばろう」と思える場所に』というテーマのもと、2つのことに取り組みました。▼ひとつは昇降口のドアガラスに花を描いて、雰囲気明るくしました。▼もうひとつは、登校した時や下校する時に、「今日もがんばろう、明日もがんばろう」と思える下駄箱にするため、「がんばろう」と思える言葉や絵や写真等を使って制作したカードを下駄箱の内側に貼り、常に目と心に留まるようにしました。(写真)▼それぞれが自分を励ますために選んだ言葉が印象的だったので、一部紹介します。

